



「しらが」をぬくと、「しらが」が増えるって本当なの

増えていくように見えるだけ

「しらが」をぬくのは、たいてい、「しらが」が1～2本できはじめたころです。

「しらが」は、ぬいても、まだ毛根が残っていれば、また生えてきますし、1本のかみの毛が「しらが」になるころには、まわりのほかの毛も、「しらが」になるころなので、つぎつぎに「しらが」になっていきます。そのため、増えていくように見えるのです。

「しらが」になるのは

かみの毛には、メラニンという色素（色のつぶ）が入っています。

かみの毛は、皮ふの下にある毛根の毛乳頭でつくられており、毛乳頭では、メラニンをつくっています。黒いかみの毛には、このメラニン色素がたくさん入っているのです。

しかし、このメラニン色素がどんなに少なくなっても、決してしらがにはなりません。

「しらが」になるのは、かみの毛をつくっている、細胞やたんぱく質が、何かの原因で少しずつぬけ落ちていき、毛の中心部分が空っぽ（空どう）になって、そこに空気が入るためです。つまり、しらがは、メラニン色素がなくなっていき、かみの毛の中心部分の細胞やたんぱく質がなくなって空どうができ、そこに空気が入ることによってできるのです。

（監修・保志 宏）

